

「多嚢胞性卵巣症候群患者における非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の頻度と
リスク因子：横断研究」

当臨床研究センターでは、上記の疫学研究をしています。この研究は、過去の臨床データをカルテから収集して行うものです。

飲酒習慣がなくても脂肪肝を発症する「非アルコール性脂肪性肝疾患」は、男性と閉経後の女性に多くみられ、その発症要因を明らかにするための研究が国内外で盛んに行われていますが、いまだ十分に解明されていません。近年、妊娠可能年齢に多くみられる多嚢胞性卵巣症候群の患者さんに、非アルコール性脂肪性肝疾患を合併する頻度が高いことが報告されています。本研究は、過去16年間の記録を集約し、どのような多嚢胞性卵巣症候群の患者さんが非アルコール性脂肪性肝疾患を発症しやすいのかについて検討し、将来の生活習慣病予防に役立てることを目的としています。

当院で、2000年（平成12年）1月1日から2016年（平成28年）9月30日までに婦人科を受診された女性で多嚢胞性卵巣症候群と診断された人を対象としています。

この研究に利用する情報は、個人情報と切り離して、個人が特定されない形で慎重に取り扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことに、ご理解とご協力をお願い致します。本研究の対象となる方で、研究への利用を希望されない方、研究計画書および研究の方法に関する資料（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲に限る）について入手または閲覧を希望される方、また個人情報の開示についてご相談等がある方は、下記の連絡先にご連絡ください。

なお、研究への協力をされない場合も、当院で受けられる診療への不利益等の影響は一切ありません。

研究責任者：国立病院機構京都医療センター産科婦人科 医師：山口 建

連絡先：同 臨床研究センター予防医学研究室（研究事務局）研究員：湊 聡美、菅沼彰子

電話：075-641-9161（代表）